

意見

- ずっと松本に住んでいると、当たり前と感じているものに対し、外の人から、「いいね」といわれることがある。当たり前のことが、それが普通でない（＝特別なものだ）と感じた。この地に住む自分たち自身が松本のポテンシャルや自然のありがたみを理解できていない。
- 外の人から見ると、松本の自然は特別なもの。そこに魅力を感じてもらう。
- 自然豊かなところに住んでいる実感はあるだろうが、それが当たり前になってしまっている。本当は当たり前ではない。山に営みがあって、まちのくらしがある、そのことに思いをはせることが大事
- 自然を生かし切ることで、自然豊かなところに住んでいるという認識を持ってほしい。自然の恵み（森林・水・動植物）のありがたみを市民が学ぶ。マインドセットが必要
- シンカは、既成概念を疑って崩していくイメージ
- 「磨く」がキーワードになるのではないか。磨くことで賑わいの創出に繋げる。
- 自然の力を借りながら、産業力を伸ばす。
- 地域に暮らす人たちが自分の街を誇れるためのブランディングが必要
- 継ぎ足して味を引き出していく。



取組みの 方向性

- 「日常（身近）にある自然」の恵みや魅力への一段と深いレベルでの理解を松本市の未来に向けたまちづくりと不可分な関係にあると捉え磨いていく。
- 身近な自然との日常的な関わりの中で培われる自然への深い理解を基盤とした施策を展開し、松本内外に「松本モデル」として誇れるまちづくりを目指していく。

令和5年度に向けて

松本「シンカ」推進会議

- 令和5年度も引き続き「自然×シンカ」の切り口で議論を深めます。
- 今年度取りまとめた2つの「取組みの方向性」をベースに、まずは自然観の捉え方をアップデート（新たなマインドセットの獲得）をするような取組みを考えます。
- 三ガク都の「岳」だけにとらわれず、教育、産業、医療・健康、移住・定住、ブランディングなど、様々な視点を加えながら、三ガク都全体・松本市全体のシンカにつながるアクションの具体化を進めます。



共有

松本市

- 取組みの方向性を庁内で共有するとともに、実施計画（事業の実行計画）を検討する上での基盤に据えることで、自然×シンカの実現に向けた市民のアクションを下支えする施策の検討を進めます。